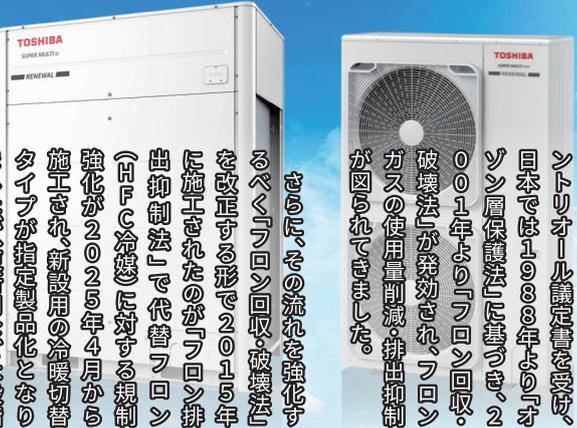


ビル用マルチ 空調システムシリーズ

日本キヤリア

日本キヤリアホームページ
<https://www.toshiba-carrier.co.jp>



冷媒規制により、2025年4月以降 ビル用マルチはどうなる!?

市場動向徹底分析

新設?更新?売れる

ビル用マルチはどれ!?

オゾン層保護のためのモントリオール議定書を受け、日本では1988年よりの「オゾン層保護法」に基づき、2001年よりの「フロン回収・破壊法」が発効され、フロンガスの使用量削減・排出抑制が図られてきました。

さらに、その流れを強化するべく「フロン回収・破壊法」を改正する形で2015年に施工されたのが「フロン排出抑制法」で代替フロン(HFC冷媒)に対する規制強化が2025年4月から施工され、新設用の冷暖切替タイプが指定製品となりましたが、更新用などは段階的な切替となっています。

2025年4月以降のビル用マルチ冷媒規制スケジュールと低GWP製品導入時の安全設備について

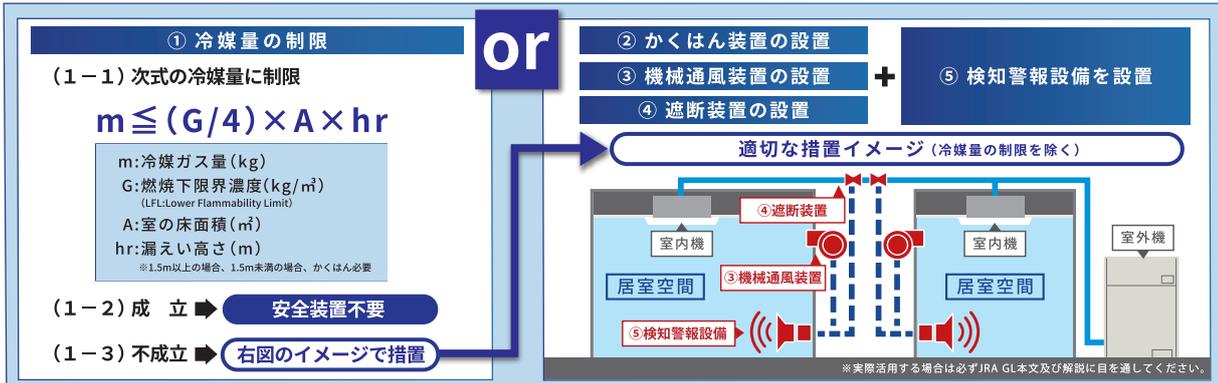
Shiru 知得 Toku! **更新・冷暖フリー・寒冷地は、まだまだ R410A 冷媒が使用可能!**
全ての製品が一律対象になるのではなく、製品によって冷媒規制対象のスタート時期が異なります



Shiru 知得 Toku! **R32 (A2L) 冷媒の使用には、安全設備の増強必須で工事コスト増!**
R32 (A2L) 冷媒への移行には、燃焼性を有する冷媒を安全に使用方法が必要です

JRA GL-20 特定不活性ガスを使用した冷媒設備の冷媒ガスが漏えいしたときの燃焼を防止するための適切な措置

- 冷媒ガスが漏えいしたときに、燃焼を防止するために①～④に規定する措置のうちの一つの基準に適合しなければならない。
- ②～④の規定を選択した場合は、検知警報設備を設置しなければならない、検知警報設備は⑤の規定を満足しなければならない。



JRA GL-16 微燃性(A2L)冷媒を使用した業務用エアコンの冷媒漏えい時の安全確保のための施設ガイドライン

微燃性(A2L)冷媒を使用する業務用エアコンに充填された冷媒の漏えいに対する安全確保のための空調システム選定・施工・換気などの施工側の対応を規定

市場動向徹底分析
15号
令和7年3月31日(月)
市場ストック状況どうなる今後の更新市場!
裏面

ま知
すっ
かて

市場ストック状況どうなる今後の更新市場!

市場状況と今後の更新市場に注目しましょう!



Shiru
知得
Toku!

そんなに更新需要あるの! 市場ストックは全体の約70%※を占めます!

ビル用マルチの市場は更新需要が圧倒的に中心なんです!

※当社調べ

市場ストックは2024年で約3.4百万台の予測であり、更新年数は20年前後と見られる(当社調べ)。各メーカー共にR410A冷媒機種は2003年発売であり、更新需要は既にR410Aからの更新が主流となっている。

VRF 年度別出荷台数 (全メーカー) (当社シミュレーション)



市場に残っていると推測される R22もしくはR407C機器

市場ストック 3,387千台 - R410A機器 2,567千台 = 820千台

R22冷媒からの更新市場
820千台 (構成比24.2%)

R410A冷媒からの更新市場
2,567千台 (構成比75.8%)

省エネ性能や、メンテナンスコストも考えると買い換えサイクルは約15年~20年が効率的なサイクル時期です。ライフサイクルコストを考えた更新需要に最適なスーパーマルチシリーズラインナップ

スーパーマルチu® uR シリーズ

R22 R407C 更新用

リニューアル用フィルター搭載

高効率S仕様	8HP~50HP
高効率仕様	8HP~54HP

スーパーマルチu® u2 シリーズ

R410A 更新用

高効率S仕様	8HP~50HP
高効率仕様	8HP~54HP

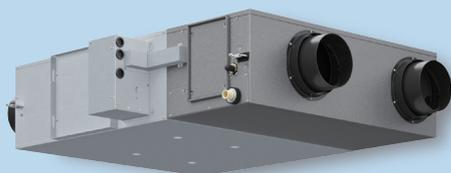
スーパーマルチmini® 更新用

R410A 更新用

標準 単相	3HP~4HP
標準 三相	3HP~12HP

集中制御システムを構築でき、もっと省エネに快適空間を実現できます!

業務用・全熱交換ユニット ヒートフルエア®



トレンドは「空調」+「換気」!一緒に空質改善しませんか?

ヒートフルエア® シリーズに「加湿付」登場!

- ▶ 省エネ性・設計自由度・施工性向上!
- ▶ 定風量換気制御に対応!
- ▶ CO₂・PM2.5センサー(別売)対応
- ▶ 滴下気化式加湿器採用でクリーンな加湿!

空調・換気のことなら日本キャリアまで!

担当営業



日本キャリア公式SNS始めました!!

